

井村屋フーズは、井村屋グループのBtoB事業の中核を担う企業として、調味料のOEM及びODM事業、レトルト、スパウチ商品のOEM事業を主な業務としています。

その中で、当社が目指す「安全・安心の取り組み」の一環として、カーボンニュートラルとされる木質バイオマスボイラーを導入することにより、生産工程で消費する化石燃料の大幅な削減と環境負荷低減を図って参ります。

## <事業適応計画の概要>

### 1. 事業適応計画の実施期間

2026年4月～2029年3月

### 2. 生産性向上目標・新需要開拓目標

炭素生産性を20%以上向上させる。

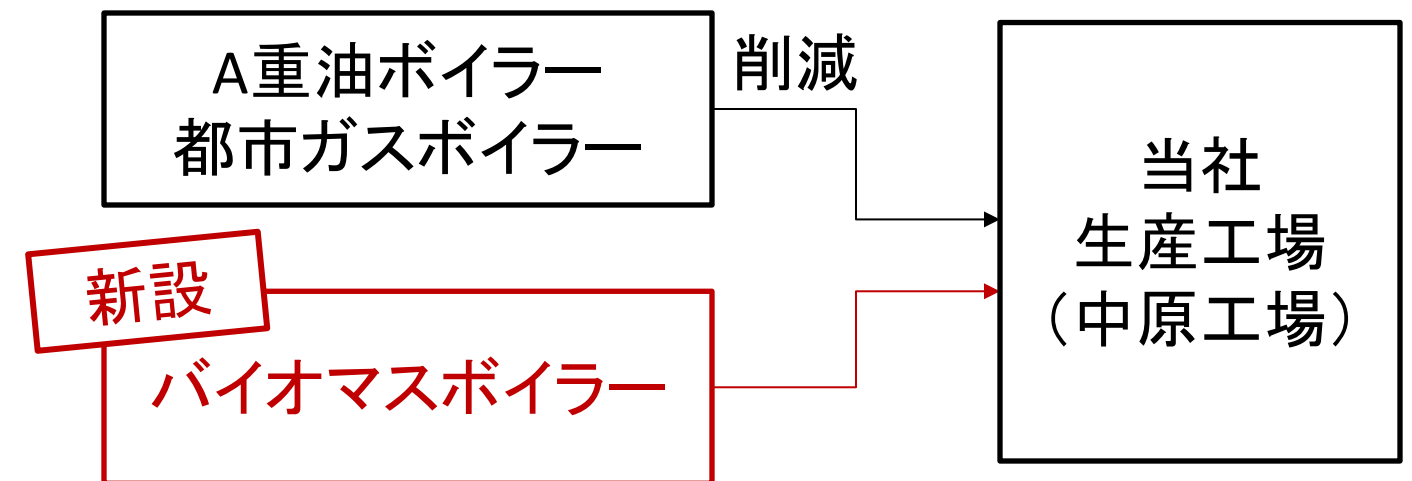
### 3. 前向きな取り組みの内容

生産工程におけるプロセス蒸気を化石燃料から木質バイオマス燃料へ転換することで、大幅な炭素生産性の向上と環境負荷低減を目指す。

### 4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

## <取り組みの内容のイメージ>



## <当社中原工場の外観等>



## 様式第十八の四（第11条の3第3項関係）

### 認定事業適応計画の概要の公表

#### 1. 認定の日付

令和8年3月31日

#### 2. 認定事業適応事業者の名称

井村屋フーズ株式会社

#### 3. 認定事業適応計画の内容

##### （1）事業適応に係る事業の目標

近年、気候変動や地球温暖化への企業への対応が求められている。それに対し、弊社を含む井村屋グループでは、食品製造業におけるプロセス蒸気をバイオマスボイラーにより非化石転換する取り組みを行っている。

本事業で、弊社中原工場の大幅なCO<sub>2</sub>削減と燃料価格の低減と安定化を測り、企業価値の向上を目指していく。

##### （2）その事業の生産性を相当程度向上させること、またはその生産し、もしくは販売する商品、もしくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標。

事業適応策としてのバイオマスボイラーによる大幅なCO<sub>2</sub>排出量により、炭素生産性を20%以上向上させることを目標とする。

##### （3）財務内容の健全性の向上を示す目標

2028年度（計画終了年度）に、引き続き経常利益を計上することを第一の目標とする。そのうえで、燃料費の低減によりさらなる利益向上を目指す。

##### （4）事業適応の種類

エネルギー利用環境負荷低減事業適応

##### （5）計画の対象となる事業（日本標準産業分類における中分類名称およびその分類コード）

対象となる事業：製造業 食料品製造業（09）

計画の対象となる事業は、本事業所のすべてが食品製造にかかわるものとなる。

（選定の理由）

当社のメイン生産拠点である中原工場から率先的に炭素生産性の向上を図るため。

(6) 事業適応の具体的内容

事業適応の内容：現在、A 重油や都市ガスにより蒸気を生成し、殺菌や煮沸を行っている工程を、バイオマスボイラーによる蒸気に代替する。これにより、年間で約 2,000t-CO<sub>2</sub> を削減する目標である。

(7) 事業適応の開始時期および終了時期

開始時期：2026 年 4 月

終了時期：2029 年 3 月